圏から経済開発の遅れた地方への分散の方向へむかわせ、過疎、過密問題の解決をはかるためには、福岡から熊本、八代へ至る九州中央都市軸を縦貫して新ネットワークを整備するとともに、この地域を中心に大規模な都市化工業化地帯を造成し、これを九州経済発展の主軸として開発する必要がある。

▽高能率経済社会の建設

県経済は、農業主導型から多部門成長型へ移行してきており、産業構造も高度化の方向にあるが、国民経済に比べるとまだ立遅れがみられる。したがって、今後、九州中央工業地帯の形成によって、雇用力の高い高度加工工業の立地を促進し、農林水産業、中小企業の近代化をすすめ、産業構造の高度化と労働生産性の向上をはかる必要がある。あわせて高度化された産業と高水準の生産をになうことのできる新しい人間能力の開発と育成につとめ、高能率の経済社会を建設していく必要がある。

▽魅力ある地域社会の形成

都市的な生活様式の普及とモータリゼーションの進展などによって、住民の日常生活の行動範囲は広域化する方向にあるが、経済の発展とともにこの傾向は一層促進され、近代的な社会生活環境施設に対する住民の欲求も高度化してくる。したがって、広域の日常生活圏を単位として、道路をはじめ、保健医療、教育、文化施設など生活環境施設の総合的な整備につとめ、高度化された産業と生活の場にふさわしい魅力のある地域社会を形成する必要がある。

□開発の基本方向

戦略的大規模事業の推進

▽基幹的交通通信体系の整備

空港については、今後における国際交流の活発化に備えて、東京、大阪の国際空港のほかに、大型ジェット機の離着陸が可能な基幹空港を九州に建設する必要があり、そのため、現在建設をすすめている新熊本空港をさらに大型化し、滑走路三、〇〇〇メートルの大型基幹空港として整備するとともに、国際線の就航を促進する。

九州縦貫自動車道については、すでに建設工事にとりかかっており、昭和四十七年までに県内熊本以北の区間が完成する見込みであるが、さらに五十年ごろまでに熊本、八代間を完成し、引き続き八代以南の区間の建設にとりかかるよう強力に推進する。また、本県と大分、長崎を結ぶ中九州横断自動車道、および日向延岡と結ぶ九州中部横断自動車道の建設構想について、その具体化を促進し、九州を縦貫するルートのみならず、横へ結ぶ高速自動車道の建設をはかり、九州における本県の位置的中心性を高める。

新幹線鉄道については、山陽新幹線が昭和五十年までに完成するので、引き続いて福岡から熊本、鹿児島を結ぶ九州新幹線鉄道の建設を強力に推進するとともに、熊本と大分を結び、四国を経て関西へ連絡する新幹線鉄道の具体化につとめる。

これらの高速交通網の形成と並行として、これと県内の各地を結ぶ幹線道路については、昭和五十年までに国道、五十五年までに主要地方道全線の改良舗装を完了するようにつとめるとともに、交通渋帯の激しい国道区間については、バイパスの建設や拡幅を促進する。また、一般県道および重要な市町村道については、六十年までに改良舗装を完了するようその整備につとめる。さらに長洲、玉名、山鹿、菊池から阿蘇スカイラインを経て瀬の本、杖立に至る城北開発横断道路の建設を促進するとともに、荒尾長洲から臨海部を経て八代に至る産業開発臨海道路、県東南部山岳地帯を縦走して人吉市と砥用町を結ぶ城南山岳縦断道路、ならびに新空港と熊本の都心を結び国道五十七号に至る自動車道路など、本県の産業開発の動脈を形成する新ルートについて、その具体化をはかる。なお、鹿児島本線の複線電化については、熊本以南の早期完成を促進する。

また、港湾については、海外貿易の発展と海上輸送の拡大を期するため、八代港、三角港、水俣港の整備を行なうほか、有明臨海工業地帯の形成にあわせて、あらたに荒尾から長洲にいたる地域の地先に五トン岸壁を備えた有明新港の建設をはかる。なお、熊本市の都市港湾については、商業、流通の拠点として整備することとし、その建設の具体化につとめる。

なお、これらの物的流通のネットワークとあわせて、データ通信など情報のネットワークを整備し、特に流通、企業経営、農産物の生産販売、行政、観光などの面で、情報の効率的な利用をうながす。そのため、電子計算機と通信回線との結合による情報の処理、伝達の高速化、大量化につとめるとともに、情報処理サービス業や情報提供サービス業など情報産業の誘致、育成をはかる。

▽中枢都市の開発

本県のみならず、九州における大規模な中枢管理機能の集積地である熊本市については、九州におけるその位置的中心性を生かして行政的、経済的、文化的な都市機能の拡充をはかるとともに、水と森を生かした都市施設の総合的な整備につとめ、活力にみちた魅力のある中枢都市として開発する。

そのため、①熊本市と九州の各都市および全国主要都市との交流を高める交通通信施設の整備を強力に推進するとともに、②行政機関、政府関係機関の拡充につとめ、行政管理都市としての性格を強化する。③大学、研究所など学術機能の集積を高め、すぐれた文化施設の整備とあいまって、近代的な学術文化都市としての発展をはかる。また、④卸売部門を中心とする経済的管理機能の拡充につとめ、近代的な流通団地の建設をはかるほか、有力商社の支店、支社の誘致など、九州、特に中南部九州における流通拠点都市として形成する。さらに、⑤行政、経済に関する情報機能および会議施設の拡充をはかるとともに、九州広域観光の拠点としての機能を拡充することによって、観光都市、会議都市として特色のある発展をはかる。

また、合理的な土地利用計画のもとに、街路や住宅、上水道など生活環境施設のほか、文化、体育、レクリエーション施設、公園など、すぐれた都市の総合的な整備につとめ、水と森を生かした魅力のある都市として、美しい住みよい都市の形成をはかる。

▽産業開発プロジェクトの推進

九州中央都市軸における大規模な工業開発拠点として、九州中央工業地帯の形成をはかり、雇用力の高い高度加工工業の立地を促進するため、有明、八代の臨海部および熊本周辺の内陸部を中心に、あらたな工業用地の造成と確保につとめる。特に、荒尾、長洲の有明臨海部には約五、〇〇〇ヘクタールの臨海用地として造成可能な適地があり、有明新港の建設と工業用地の造成を積極的に行ない、昭和六十年までに約八三〇ヘクタールが利用できるよう建設をすすめる。また、八代臨海部においては、現在造成をすすめている八代外港地区二一〇ヘクタールの工業用地の早期完成につとめるとともに、あらたな臨海工業用地の造成をはかる。熊本周辺の内陸部においては、およそ七五〇ヘクタールの工業用地の確保につとめ、計画的な内陸工業団地の造成をはかる。なお、有明地区、八代地区に工業用水道の建設をすすめ、工業用水の円滑な供給につとめる。

また、生産性の高い農業地帯の実現をはかるため、緑川、球磨川、菊池川、白川などに多目的ダムの建設をすすめるほか、羊角湾の淡水化など水資源の開発につとめ、水管理の高度化や大型機械の導入促進されるようにほ場整備や農道などほ場条件の改善を行ない、農業生産の高度化をはかる。

一方、阿蘇を中心とする高原地帯に約四万ヘクタールの大規模な畜産基地の形成をはかるため、四万八、〇〇〇ヘクタールの低位用原野について、あらたに二万六、七〇〇ヘクタールの草地と約一万ヘクタールの林間放牧地の開発を計画的にすすめ、既存の改良草地三、三〇〇ヘクタールとあわせて、飼料基盤の強化をはかる。さらに、道路および大規模酪農経営の出現にともなう集落の形成など関連施設の整備につとめる。

森林の公益的機能を重視した資源の利用開発と増大する木材需要に対応する生産の増大をはかるため、球磨川、緑川、白川の上流一帯における約二八万八、〇〇〇ヘクタールの未開発、低利用の広葉樹地帯や原野について、林道網の整備や拡大造林、その他関連産業の開発など特定森林地域の大規模な開発を推進する。

さらに、戸北、天草地域においては、不知火海域総合開発計画の具体化につとめ、沿岸をめぐる周遊道路の形成をはかるとともに、魅力的な海岸美と海洋資源の背後地のオレンジベルトおよび沿岸の栽培漁業地帯と一体的に開発し、大規模な海の観光レクリエーション地帯として形成する。また、この計画の一環として八代地先から戸馳島へ至る海面締切りを推進し、淡水湖は水資源の供給や淡水漁業に利用するほか、干陸部は高度な商品生産農業地帯として形成し、一部工業用地にも利用するなど多目的な開発をはかる。

主導的産業の振興

県勢の飛躍的な発展をはかり、活力にみちた豊かな郷土を建設するためには、戦略的大規模事業を積極的に推進するとともに、工業、農業、観光、流通など主導的産業の振興につとめ、県経済の発展をはかる必要がある。

▽九州中央工業地帯の形成

最近、本県においては、大型繊維工業、電子工業、アルミ工業などの進出によって、新産業都市の建設があらたな展開をみせはじめており、これらの立地動向や今後の技術革新の進展方向を見定めながら、既存工業の振興に加えて、アルミ工業、電子工業、機械工業、化学工業、食料品工業、木材木製品工業など雇用力の高い高度加工工業地帯の形成につとめる。

特に、荒尾、長洲の有明海部においては、臨海埋立地の造成と大型港湾の建設および用水の確保に適した立地条件を備えており、九州中央都市軸における新し工業開発の大規模な拠点として、臨海工業地帯の形成をすすめる。現在、すでにアルミ工業を核としてその関連企業の配置がすすんでおり、さらに今後、輸送機械、機械金属、食料品、住宅関連工業などの立地を積極的にすすめるとともに、内陸部においても中規模の工業団地を造成し、電気、一般機械、窯業、繊維工業などの立地を促進する。

内陸部の熊本地区については、増大する消費需要を背景とした都市型工業の開発拠点として、内陸工業団地の計画的な造成をすすめ、一般機械、電気機械、輸送機械、精密機械など高度加工工業の立地を促進する。なお、この地区は、中枢都市熊本の一部を形成する都市近郊地帯であるので、都市化の方向と調和のとれた工業の展開につとめる。

現在、県下で最大の工業集積をもつ八代地区については、すでに造成がすすんでいる八代外港地区工業用地の早期完成と工業用水道、八代外港の建設などを促進することによって、既存企業の規模拡大と化学、食料品、木材木製品、機械金属工業などの立地を積極的に推進する。さらに、あらたな臨海工業用地の造成をすすめることによって、工業生産のいっそうの増大をはかる。

さらに、従来から工業集積の高い水俣、戸北、そのほか球磨、天草、阿蘇などの各地においても、既存工業の振興に加えて、農村部にそれぞれの特性に応じた雇用力の高いあたな工業の展開をはかり、雇用需要の増大につとめる。

また、事業所数で全体の九九・七パーセント(昭四二)を占める中小工業は、本県工業の基盤となっており、今後、工業開発の原動力として大きな役割を果たすものと期待されるが、中小工業をとりまく経済環境は労働力不足の深刻化とともにますますきびしさを加えてきている。したがって、設備の近代化や協業化、集団化の促進と技術指導の強化によって、経営の合理化と技術の向上につとめると